

## 委員からメール等で個別にいただいた意見

大塚委員より

### 【生涯を通じて健康に過ごせる環境】

- ・新体育館が東京オリンピック・パラリンピック「卓球」の公式練習会場に決まったが、選手のサインや写真・練習風景の撮影を通して、区民のスポーツ促進につなげていけないか。
- ・「身体障碍のお子さんの為の体操動画を撮影してほしい」など、福祉分野で動画のニーズが最近高まっていると感じる。

### 【支援を必要とする人を支える社会参画】

- ・若者へのアプローチとして、アイドルとコラボをして献血推進運動をしたことがある。中野の地下アイドルや芸人を「福祉大使」などに任命して定期的にイベントを企画することによって、普段ボランティアに興味のない若者が興味を持って社会参画するきっかけになるかもしれない。
- ・中国広東省佛山市では、役所や図書館に「ボランティアに積極的に参加しよう」「困った人は助けよう」といった内容のアニメーションや教育動画がよく流れていて、効果的だと思った。

岡見委員より

### 【高齢医者の集える場所の確保】

- ・高齢者会館、まちなかサロン等を利用して元気に過ごしている高齢者が多い。特に高齢者会館では、介護予防事業が沢山入っていて賑わっているが、高齢者が自主的に行っているサークルが、部屋を確保できない。土日は空いているが、利用者が会館を開けなければならず敬遠される。区民活動センターのように土日職員も配置をして利用できるような仕組みはどうか。

### 【民生児童委員の仕事の軽減】

- ・11月末に退任する40数名の民生児童委員の後任を推薦する作業を進めているが全員を推薦することは大変厳しい。民生児童委員は、乳幼児から高齢者まで関わり、守秘義務もあるため片手間にできる仕事ではない。しかし、働きながら、家族の介護をしながら、町会活動にも関わりながら、民生児童委員を務めている方が多くいる。最近では、70歳近くまで働く方が多くなり、民生児童委員の仕事内容を軽減し、委員を支える環境を整えなければ、担い手の確保はますます難しくなる。10年後、高齢者だけが地域を支えるのではなく、若い方たちが働きながらでも地域活動に気軽に参加でき一緒に支えるような環境になってほしい。

由良委員より

**【健康づくり】**

- ・買い物など日常生活の中で、できることを見つけて実践していくのがよい。
- ・少し大股で歩くと早歩きになり、心拍数が上がる。負荷をかけることで、身体機能の維持につながる。
- ・健康でいることにインセンティブを付与することによって健康意識が向上していくと思う。
- ・一病息災という考え方もあるので、個々に適した健康づくりができるとうい。

**【認知症予防や発達障害の早期発見】**

- ・手先の運動が認知症の予防によい。
- ・発達障害は中学生くらいから分かってくる場合が多い。早期発見と家族の理解が重要。

**【診療所の地域とのつながり】**

- ・健康づくりや疾病予防の観点からも、かかりつけ医を持つことが大切であるため、意識啓発する必要がある。
- ・介護サービスが必要な人は地域包括支援センターに連絡して介護サービスにつなぎ、病院での診察が必要な場合は専門の医療機関につなぐ等、診療所は、交通整理の役割を担うと考えている。

**【既存の区有施設の活用】**

- ・サロンは介護予防のために重要だが、マンパワーが必要となるので、増やしていくのは難しい。区民活動センターやすこやか福祉センター等の既存の施設でサロン等を実施してはどうか。その際に、障害のある人とない人が自然と交流できるような場にしてはどうか。

**【広報】**

- ・介護サービスについて、無料・有料のサービスをはっきりと明示する等、区民目線に立って、より分かりやすく発信する必要がある。区報は、高齢者を中心に読んでいる人が多いので、もっと活用できるのではないか。
- ・民生児童委員やシルバー人材センターの会員等、地域で活動している人に、口コミで情報を広めてもらう等、情報発信の手法も工夫できると思う。